cinemaz-life cinemaz-life cinemaz-life cinemaz-life cinemaz-life cinemaz-life cinemaz-life cinemaz-l

シネマズライフ

2012年6月15日発行　第18号　http://p.booklog.jp/users/rion-takagi　貴樹 諒音（たかぎ りおん）

☆ネットでも読めるミニコミ誌です！主に映画の紹介とコラムです。よろしかったら、コメントでご感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願いします！ m(_ _)m 貴樹諒音

☆【最近のこれはお見事！】は、見事な映画の題名の紹介します反して、【最近のこれはまずいぞ！】は、「これは、まずいぞ！」と思う映画の題名を紹介します。

映画の風景　日本の風景

※ 大阪 HEPFIVE 観覧車 ※

昔『第三の男』という映画があった…こんな映画だ。

第二次世界大戦が終わった冬のウィーン。四つの国に分割管理されているウィーンは荒廃しきっていた。その頃、アメリカから小説家・ホリー・マーティンスが友人・ハリー！・ライムを訪ねてウィーンにやってくる。ハリーの住むアパートを訪ねると、なんとハリーは交通事故で死んでおり、その日はハリーの葬式だった。突然のハリーの死に驚いたホリーは事故を目撃したというアパートの三人の男に話を聞いたところ、ハリーは三人の内の二人は見つけるが、三人目の男が誰なのかわからない…。

HEP FIVE
屋上の観覧車

守衛に運ばれていたという。

一方、ホリーは、ハリーが闇のペニシリンを不法に売りさばきたくさんの犠牲者が出ている事知る…。

黒と白のコントラストのすばらしい映画として有名で、特にハリーが登場する場面はモノクロ映画の中でも屈指の名場面として数えられる。ラスト近く、事の真相を探ろうとホリーは観覧車に乗る。そこから見える風景は、荒廃したウィーンの姿だ。一方、大阪の観覧車から見える風景は、新しく活気に満ちているように見える、が・そこに歩く人々の心は、当時のウィーンの人々心より豊かなのだろうか？っと考えてしまった。

『第三の男』1949年 アメリカ 監督：キャロル・リード 脚本：グレアム・グリーン 音楽：アントン・カラス 主演：ジョゼフ・コットン オーソン・ウェルズ

クライマックスの地下水道のシーンはオーソン・ウェルズが下水道での撮影を嫌がり一部スタジオにセットを組んで撮影した。また、彼の実際の出演シーンはわずか9分である。

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します！

on air！

『ハート・ロッカー』

ムービープラス
2010年 アメリカ
監督 製作：キャスリン・ビグロー
出演：ジェレミー・レナー アンソニー・マッキー
ガイ・ピアースレイフ・ファインズ

6月18日(月) 13:30　6月23日(土) 10:15

2004年夏、アメリカ軍の爆発物処理班“ブラボー中隊”はイラクのバグダッド郊外に駐留していたが、処理の最中にメンバーの一人が殉職。新しいリーダーとして就任してきたのはウィリアム・ジェームズ二等軍曹。しかし、ジェームズ軍曹は、基本的な安全対策を行わずほとんど無防備な状態で爆弾処理に挑むので彼の評価は高い。しかし、部下のサンボーン軍曹とエルドリッジ技術兵は、彼の行動に困惑していた…。

２０１０年米アカデミー賞で作品賞、監督賞など６冠受賞、対抗馬が『アバター』で作品の出来は雲泥の差（うんでいのさ）、この映画の受賞は当然だろう。アメリカにとっては、よほど身につまされる映画だったのか、主なアメリカの賞を総なめにしている。

アメリカが泥沼にはまり込んだ「戦争中毒」をマジで描いている映画は始めてではないだろうか。

『知りすぎていた男』

ザ・シネマ
1956年 アメリカ
監督：アルフレッド・ヒッチコック
出演：ジェームズ・スチュワート、ドリス・デイ

6月16日(土) 深夜 27:45 ⇒ 6月17日(日) 03:45
6月26日(火) 23:00

フランス領・モロッコ。パリの医学会議に出席したベンはブロードウェイのミュージカル・スターだったジョー夫人と、息子ハンクを連れてこの地を旅行していた。バスの中で困っている時にフランス人のベルナールに助けられ親しくなる。翌日、マラケシュで仲よくなったドレイトン夫妻と共に市場にでかけたところ、ベンの目の前では様子のおかしいアラビア人が倒れ込み彼に「謎の言葉」をささやいて死ぬ。なんと、そのアラビア人はベン達を助けたベルナールだった。

その為、ベンとジョーは、警察に呼び出されやむなくハンクを夫人に預け警察へ、ところが警察から開放され帰ったところ、夫妻はハンクを連れてロンドンに帰国していた。同じ頃・電話で脅迫されていたベンとジョーは、夫妻を追ってロンドンに帰国するが…。

劇中でドリス・デイが唄う「ケ・セラ・セラ」は、1956年のアカデミー歌曲賞を受賞。物語の重要なモチーフになっている。

※貴樹諒音※ cinemaz-life@movie.nifty.jp　※告知ブログ※ http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/

発行予定は第一・三金曜日　∽次回発行は2012年７月６日です。∽

【最近のこれはまずいぞ！】『一枚のめぐり逢い』

この題名はゴロが悪い。原題が「THE LUCKY ONE」。直訳の「ラッキー・ワン」でもいいのに。やたらと直訳して《言語不明瞭・意味不明》も困るけど、「ラッキー・ワン」はどっちの単語も意味はよくわかるのですっきりすると思うんですがね。

【最近のこれはお見事！】『けっこう仮面 新生-REBORN-』

今まで何度もビデオ化されているが今回は最新作。女生徒に危機が訪れると「けっこう仮面」があらわれもない姿で現れ悪漢達やっつけるので、その姿が《けっこう》な姿なのでこの題名がついたのでした。しかし、この題名は女子にはあまりインパクトはないんだな。

「霊幻道士」

1985年 香港
製作：サモ・ハン・キンポー
監督：リッキー・リュウ

出演：ラム・チェンイン リッキー・ホイ
ムーン・リー チン・シュウホウ

大富豪のヤンに父親の墓の改葬を依頼された道士・ガウ。墓を開けてると、死体は異常な状態。生前恨みを買っていた為、間違った方法で埋葬されていて、このままにしておくと恨みを持ったままキョンシーになってしまう事がわかる。

中国でもご供養にはお線香は必需品です。

そこで、ガウは死体を引き取り正しい供養をする事に。ところが、できの悪い弟子のモンとセンが失敗して死体はキョンシーになってしまい、ヤンを殺して行方不明に。

キョンシーになると、異常な力を持つ怪物になり、退治するには正しい供養をするしかない。そうこうしているうちに、ヤンもキョンシーと化してしまい娘を襲う。

一方、弟子のモンは中途半端にキョンシーに襲われて半分キョンシー化。また、センは美女妖怪に惚れられてしまい、ヘロヘロになってしまう。

さて、ますます狂暴化したキョンシーと決戦がはじまるが…。

80年代後半のキョンシーブームのきっかけになった作品。怪物でありながらどことなくユーモアのあるキョンシーがかわいい。しかし、死体なんですがね(^-^)。

実は公開当時、道士役のラム・チェンインは33才・弟子役のリッキー・ホイが39才！なるほど、道士はかなりフケメイクです。

Film Movie Cinema Film Movie CinemaFilm Movie Cinema Film Movie Cinema CinemaFilm Movie CinemaFilm Movie Cinema

コラム

儲かる漫画と面白い漫画 後編

ネットのサイトに、自由に投稿させて人気が出た漫画を雑誌に載せる…。

まったくコネもなく出版社に投稿もできず、ましてや持ち込みもする勇気もない作家にとっては、この制度もまあいいかもしれない。だが、どこぞの宗教団体が、広告塔を作りたい為にその作家にやたらと投票して、人気があるとし雑誌に載ったらりっぱな広告塔として人気作家になってしまう。

それはさておき、これって編集者の仕事放棄している事にならないのだろうか？サイトで、勝手に漫画をアップしていくらかのファンを付いた作家を本紙に載せる。そうなると事務的に作家を雑誌に載せる作業のみが仕事になる訳で逆に編集の人達の首を絞める事になると思うのだが…。

思えば、私が熱心に漫画を読んでいた時期は【儲かる漫画】と【面白い漫画】は一致していたと思う。手塚治虫・藤子不二雄・赤塚不二夫・水木しげる…、たくさんの人達に面白い漫画を読ませようとしていたし、雑誌の編集者達はそれに答え適切な助言をしていたという…。

『テルマエ・ロマエ』を読み切りで載せた《コミックビーム》は、元はゲームまんがを載せる雑誌だったが、昨今は従来の雑誌が敬遠するような作品でも掲載する雑誌で、ヤマザキマリは掲載に際しても適切な指導も受けたそうだ。

映画化になりイタリアでも公開され、ひょっとしたら世界的なヒット作になりかねない作品は、従来の雑誌が喉から手が出るほどほしかった作品だったに違いない。

しかし、大方の出版社は別に『テルマエ・ロマエ』のような大ヒットする漫画より、編集のいう事を聞いてほちほち単行本が売れる漫画家が描く漫画の方がいいのかもしれない。その為には、「読み切り」ではなくとりあえず手っとり早く単行本にしたくて、前回の「読み切りとかって何の意味があるんだろうね？」とい発言になったんだろうか？真意はわからないが、新人を育てる為の「読み切り」の重要性はまったく理解していないようだ。

苦労もせずわずかでも【儲かる漫画】を探す漫画誌は、ユニークな経歴を持つ作家の『テルマエ・ロマエ』のような作品は絶対掲載する機会はないように思う。

大手の雑誌社で読んでみたい漫画が少ない昨今、宝くじを引くような【儲かる漫画】を探すのではなく、【面白い漫画】を描く作家を《育てる》という事をするのが、最善の近道かもしれない。

※編集後記 ※

☆ もう梅雨に入りました。不安定な季節です。ご体調お気をつけください。

奥付

シネマズライフーcinemaz-lifeー１８号
http://p.booklog.jp/users/rion-takagi
著者 : 貴樹 諒音
メールアドレス cinemaz-life@movie.nifty.jp
著者紹介ブログ 『明後日の憂鬱』
http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/2012/01/post-bcc7.html
《ザ・シネマ》
『知りすぎていた男』
《ムービー・プラス》
『ハート・ロッカー』

映画の感想は現在・下記のサイトにアップしています。
ぜひ、ご覧くださいませ。

Yahoo!映画

rion_takagiのMyムービー

http://my.movies.yahoo.co.jp/profile-g.uFlUaEfCFw6D1cq3gb5A--

※＆ 他にもいろいろやってます。**(^^;)** ※＆
お世話になっているインターネットＴＶ
netchannel KYO
内で番組作ってます。
『カラフルタイムズ』
新タイプの映画紹介とコラムです。
m(_ _)m ダウンロードで鑑賞できます。 **m(_ _)m**
http://www.nc-kyo.com/watchtvprogram_karafuru.html
『オススメ犬映画』
http://www.pet-c.net/column/movie/index.php
犬の映画を紹介してます。

§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※
感想はこちらのコメント欄かメールを頂けたら幸です。
cinemaz-life@movie.nifty.jp
§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※§※

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）

運営会社：株式会社paperboy&co.